

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105354
法人名	松山医療生活協同組合
事業所名	グループホームなないろ
所在地	松山市立花二丁目2番15号
自己評価作成日	平成21年7月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

意欲支援計画書を作成し、一人ひとりの気持ち・思いを大切に、利用者の意欲が出るような支援を行うよう努力している。これまでに、墓参り・里帰りの支援やご自宅に帰る為の支援、ご家族の葬儀に参列する支援を行ったり、疎遠になっているご家族に働きかけ交流を、持つように支援したり、趣味ではじめたピースのアクセサリーを販売するような支援を行ったり等、利用者・家族の思いが叶う支援を目指し、様々なに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ご本人を支えてくれる人に対する思い」についてご本人の子供の頃からこれまでのことを年表で表し、その頃の様子や出来事等も探っておられる。新しい情報を得たら更新するようになっており、新人職員等はその情報を知ってから利用者にかかわるようにされている。又、現在の利用者の言葉や行動等の背景を探ることに努めておられる。利用者個々が興味のあることを探り、ピース作品を母体病院のスペースで販売する等、ご本人が意欲を持って行えるよう支援に工夫をされている。
「介護計画書」と他に、「意欲支援計画書」を作成して利用者が楽しく生きがいのある生活を送ることを支援できるよう取り組まれている。「ご家族の気持ち」も踏まえた計画作りに取り組まれている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームなないろ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

平野小百合

評価完了日

H21年 7月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は、管理者と職員間で話し合い決めている。開設当初から理念の変更は無いが、定期的に話し合い自分達が行なって行きたい目標になっているか話し合いを持っている。理念の中にある生きがいを感じる生活を支援して行く為に、意欲支援計画書等を作成し活用している。	
			(外部評価) 事業所では、「住み慣れた町で安心して楽しく生きがいを感じる生活を支援します」という理念を掲げ、地域資源を活用しながら利用者の意欲を支援できるよう取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩に出掛けたり、1階部分にある、デイサービスの利用者や交流したりする事が多い。地域のお祭りではお神輿の休憩場所を提供したり、子供会と合同で花火大会を行ったりしている。近くの保育園児からも慰問をうけたり、地域の敬老会のお誘いを受けたりして交流を持っている。隣人からも野菜を頂いたり、お寿司をお裾分けしたりの交流がある。	
			(外部評価) 地域の松山医療生協の組合員の方達が、夏祭り時等にボランティアに来てくださったり、地区内の他グループホームにも夏祭りの案内をされている。お隣にお住まいの方とは、普段から交流があり、事業所で発する音や声等に理解をいただいたり、いざという時の協力等もいただけるようになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 研修・ボランティアの受け入れを行なっている。介護に興味を持っている方の為に介護教室を開催するお知らせを掲示しているが開催には至っていない。母体の病院では定期的に医学講座を開催している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこの意見を サービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には利用者の皆様にも参加して頂き、生活していく上での感想等を伺い、その意見を参考に会議を進めて行く事が多い。改善した事があれば、議事録やグループホーム便りに記載し多くの方に興味を持って頂く様に努力している。介護保険の改定があった時は勉強会を兼ねて行なっている。</p> <p>(外部評価) この一年間の会議には、他グループホームの方や町内会長、法人の専務等、いろいろな立場の方に出席をいただいている。町内会長の方から地区の敬老会に誘っていただき、参加をされた利用者もある。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎回、運営推進会議には参加してもらい、定期的にグループホーム便りを郵送したりしている。2ヶ月に一度の地域のグループホーム連絡会に参加している。市職員の研修場所として事業所を活用してもらっている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの呼びかけで、地区のグループホームが集まる機会が作られており、グループホーム側からの「職員が研修する機会を作ってほしい」という要望に応じ講演会が行われたり、ケアプランや困難事例等についての話し合いや知識を深める機会にもなっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員の見守り方法を検討し、鍵のかかっていない生活を支援出来るよう工夫している。権利擁護・身体抑制に対する研修に参加したり、事業所内で勉強会を行っている。ベット柵の利用の仕方は、本人又は、ケアプラン説明時に家族の意思を確認するようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室ベットサイド、トイレ等にはナースコールが設置してあり、利用者が立ち上がり時等の不安な時等に職員を呼ばれていた。居室の窓は安全に配慮して開く幅を制限されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会への参加、スタッフミーティングにて検討したり、虐待防止に努めている。利用者家族にも、面会時は時間制限せずに来所して貰い、他の利用者との交流を持って頂き、開放的な空間にするよう心掛けている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加している。現在の利用者からは問い合わせ等は無いが、グループホームの玄関にパンフレットを置く等の工夫をしている。管理者のみで対応するのではなく、全職員の見識を深めて行きたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は家族の協力を得て丁寧に説明を行なうようにしている。暫定的な、ケアプランも提案し、グループホームの環境に早く慣れて貰える様に、家族からの情報をもたらるようにしている。医療との連携についても、話し合う時間を持っている。介護報酬改定時には勉強会を持ったり、説明文章を配布したり、電話連絡をとる等を行なっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に対する意見は、おやつの時間に茶話会を持ち、自治会的な話し合いの場を持って頂いてる。食事の時間の持ち方、入浴の時間帯、外出先、行事内容等、利用者の意見を反映出来る様に工夫している。家族からの意見も多く取り入れたいので、今後、家族会を結成して頂くようにしている。 (外部評価) 忘年会や夕涼み会時には、ご家族も利用者とともに楽しまれている。事業所便りで日々の利用者の様子を伝え、遠くにお住まいのご家族にはご本人の表情も伝わるようビデオレターを送られたり、メールやお手紙で細やかに報告や連絡をされている。今夏には、はじめて家族会を開催することになっており、ご家族の代表者も決まり、「グループホームを育てていただく」ためのご意見を出していただけるよう、働きかけていかれる予定である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) ミーティングの時や随時職員の意見や提案を聞く機会を持っている。運営推進会議でも運営者も参加し意見を求めるようにしている。リロケーションダメージを避ける意味でも、職員の勤務交代等には、配慮している。</p> <p>(外部評価) 職員個々に利用者の担当が決まっており、介護計画作成時等に、気付きや意見を出されたり、トイレの日除けすだれのレイアウトにはお花の飾り等、季節に合わせて職員のアイデアが活かされている。</p>	
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 職員の負担を考慮し、柔軟な勤務体制が取れるような工夫をしている。職員研修にも力を入れ、積極的に参加出来るようにしている。職員が資格を取る為の協力も行い、今年は、介護福祉士の資格を3名取得できた。今春、パート職員の時給をあげた。更に、向上心を持てる様、待遇改善に取り組みたい。</p>	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 研修会での学びを全員が共有できる様に研修内容を報告出来る機会を作るようにしています。外部で行なわれる研修会も積極的に参加している。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) グループホームにて相互の交換研修に参加し、他のグループホームでの経験し学びを得る様にしている。運営推進会議に他のグループホーム職員に参加して貰ったり、連絡会に参加するようにしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) 事前相談で希望のある方にはグループホーム便り等を郵送したり、電話を掛けたり等の対応をしている。入居が近くなった時点でご本人にグループホームで過ごして頂く時間を持ったり、自宅を訪問するようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が相談に来られた時点でしっかりと話を聞き、現時点での必要とされている内容を把握するようにしている。必要なら、受け持ちのケアマネと連携し対応している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入所の時期には早いと思われる時は、家族と相談し待機して頂いている場合もある。1階のデイサービスを利用されて待機されている方は、時折、声を掛け状況を把握する工夫をしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ケアプランは利用者・家族・担当職員・計画作成担当者で話そうように心掛けている。歩行練習等は本人と家族間で目標設定をして貰うよう工夫している。食器の片付け、洗濯物をたたむ等は茶話会の時に話し合い、利用者が参加出来る事を話し合う機会を持ち、参加して頂くようにしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出行事の時に参加し車椅子を押して頂いたり、年に2回食事会を開き一緒に過ごして頂く時間を持ったりしている。毎日の様に面会に来られる家族と一緒に散歩をして頂く等家族の気持ちに合わせ支援している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所に住んでおられた利用者が多く、友人の面会も多い。昔馴染みの美容室に通われている方もいる。友人への電話や年賀状を出す為の支援を行ったり、担当していた、ケアマネにグループホーム便りを送ったり、面会に来て貰う等の交流が保たれる努力をしている。 (外部評価) 利用者の生まれ故郷の地を訪ねられたり、近くに住むお友達が訪ねて来られ、一緒にアルバムを見ながら過ごされることもある。又、足遠くなっているご家族との関係作りも支援されている。専門学校の実習生の受け入れ時には、管理者が実習時の感想をハガキで送り、お返事をもらうこともある。利用者個々の誕生日には、母体病院からご本人に花束が届き、事業所からもプレゼントを贈られている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事やお茶の時間が楽しくなるように会話が持てる様な支援をしたり、利用者同士の関係が円滑に行くよう職員が調整役になる支援を行っている。利用者同士の交流も多くみられ、お部屋を訪問したりする人間関係が形成されてきている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された場合は、お見舞い等にもお伺いしている。長期入院された、利用者へのフォローは難しいが、家族より連絡を頂く事は多い。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 受け持ち職員が中心となり、意欲支援計画書を活用し、一人ひとりの思いを大切に支援する事に力を入れている。自分の意思が表現しにくい方も家族と話し合うようにしている。里帰りや墓参り、映画鑑賞や自宅に帰る、園芸・ビーズ作品を展示し販売する等多様なニーズに対応している。 (外部評価) 「ご本人を支えてくれる人に対する思い」について、ご本人の子供の頃からこれまでのことを年表で表し、その頃の様子や出来事等も探っておられる。新しい情報を得たら更新するようになっており、新人職員等は、その情報を知ってから利用者にかかわるようにされている。又、現在の利用者の言葉や行動等の背景を探ることに努めておられる。利用者個々が興味のあることを探り、ビーズ作品を母体病院のスペースで販売する等、ご本人が意欲を持って行えるよう、支援に工夫をされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前のお話を家族より詳しくお伺いしている。利用者が興味深い話題を把握し、食事やお茶の時に話して頂いたり、得意な事を教えて頂いたりしている。職員の経験も長くなり共有出来る出来事も多くなり、安心して過ごせる空間を提供出来る様にしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) グループホームでの一日の大まかな流れは決まっているが、それに左右される事なく、マイペースで時間が過ごせるように、一人ひとりの体調に合わせて支援している。体調が良い日は散歩に出掛けたり、落ち着かない日は、なるべく一緒に過ごし、見守る時間を多くする等工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 介護計画を立てる時は、本人・家族の意向を取り入れたものになるように話し合った上で決めていく。意向を取り入れ実践した上で、評価し、次に繋げるように努力している。介護者側からだけの計画にならないように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 「介護計画書」と他に、「意欲支援計画書」を作成して、利用者が楽しく生きがいのある生活を送ることを支援できるよう取り組まれている。計画は3～4か月ごとの見直しをされており、「ご家族の気持ち」も踏まえた計画作りに取り組まれている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 行なった事を記入するのみでなく、見やすい様に排泄やバイタルサインを記入できるように表を作成している。日々の変化がわかり易く、介護計画にそって実践されたか、評価を記録して行く等、記録に関しては今後も工夫を行って行きたい。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) デイサービスと合同で人形劇や音楽界を楽しんだり、興味のある事を地域の上手な方に教えて貰ったりしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 毎月ボランティアで華道教室を開催している。利用者の楽しみになっており、上達もしている。民生委員、町内会長さんも訪問してくれている。まもる君の家として地域への貢献を目指している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>殆どの利用者が協力病院を受診していた方が多い。協力病院より毎週、往診して貰っている。耳鼻科・眼科等への受診も職員が付き添う様にして円滑な治療が受けられる様に支援している。急な発熱等にも、協力病院からのサポートがある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は看護師資格を有しており、母体病院と連携を図っておられる。</p>	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>専任で看護師が配置されている。体調の変化を見逃さないように休を付けている。急な体調変化にも、訪問看護が協力的で、スムーズな治療が受けられる様支援してくれている。</p>	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院によるダメージを少なくする為に、日頃の様子を細かく病院に申し送るようにしている。入院中も面会に行き状況の把握、グループホームへの復帰がスムーズに行くよう支援している。</p>	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>医療に対する意志確認書を作成し、意向に合わせての対応を行なうようにしている。日頃からも、家族と医師の連携を取れる様に体調や検査結果等を日頃から報告するようにしている。重度化するような疾患が判った場合は、希望に添い医師・訪問看護師など医療との連携を図り安心して看取りが行なえる環境を整えている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者ご本人は、「私はここで最期を迎えたい」と希望されている方が多く、事業所では看取りを支援できる体制を作り応えておられる。事業所で看取りを支援された方の「生前ご家族への思いをお話された言葉」を集め、お手紙にしてご家族に贈られた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間体制で協力病院との連携が取れる様にしている。緊急時の対応マニュアルを整備している。職員の殆どは、消防署での普通救命講習を受講している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている	(自己評価) 防災計画を作成、防火管理者を配置している。年に2回の避難訓練を消防署の協力を得て、利用者・職員共に行なっている。火災報知機・消火器の設置を行い。カーテン等は防災のものを使用している。	
			(外部評価) 事業所は、震度7にも耐える建物になっている。又、ロープ等が入った非常時用の袋を共用空間に備えておられ、玄関先には懐中電灯を用意されている。居室入り口には、利用者それぞれの状態に合わせて、避難方法がリボンの色で示されていた。	これまで事業所では、避難訓練の知識を得たり話し合いを重ねておられる。事業所は2階に位置するという事もあり、今後、利用者全員が安全に避難できるよう、独自でも夜間等、いろいろな場面を想定した訓練を重ねていかれてほしい。又、いざという時に協力していただける方を今後も増やしていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 温かい雰囲気の中で、年長者としての敬意を払い対応するように日頃から気を付けている。自己決定を尊重し、利用者の誇りを傷つけないよう接遇の研修を行なっている。居室に入室する際も声掛けとノックを行い、プライバシーの確保が出来る空間を大切にすることに心掛けている。	
			(外部評価) 職員は、利用者に対して、やさしく対応されている。職員の入替わりも少なく、利用者職員は、馴染みの関係のもと言葉のやり取りも弾んでいた。ご家族の名前を記入する面会ノートの記入方法について、プライバシーに配慮された。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりの体調に合わせて、ゆったりした対応が行なえる様に努力している。利用者の気持ち、嗜好等を考慮した対応を職員間でも共有出来るように申し送ったり介護記録に残すように工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに少しでも合わせられるように、食事・入浴等の時間を利用者と相談しながら決定している。外出・買い物等も希望時に出来るように対応している。食事時間もゆとりを持たせ、朝寝坊をもしても大丈夫というように職員も対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好みに合わせておしゃれできるように、取り易いところに衣類を整理したり、衣替えを支援したりしている。お化粧をされている利用者や着物を着ておられる方も居られる。誉めて、意欲が湧くような演出をしている。自己決定が難しい方もご家族と相談して好みに近い服装になる工夫をしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 朝・夕は管理栄養士のアドバイスを基に献立を考えているが、昼食は利用者と相談しながら、献立を決めている。下ごしらえを手伝って下さる利用者も多くもやし、根切り・ごぼうの笹がきをお願いしている。片付けも利用者の能力に合わせて、参加して頂いている。 (外部評価) ご家族も夕涼み会等では、事業所が提供する食事を食べる機会がある。利用者の誕生日には、ご本人のお好きなものが食べられるよう支援されている。又、季節の行事等を大切に献立も工夫をされている。昼食時は、食事を始めるあいさつを利用者の方がされたり、食後もゆっくりと会話を楽しみ過ごせるよう、下膳や片付けを始める時間もおおよそ決めておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量は毎回記載している。食事が安定しない利用者の家族には、ノートに記録して、詳しく、報告している。脱水予防の為に頻回に水分補給を行なっている。夜間も必要な方にはトロミ水を補給して貰っている。医師や管理栄養士のアドバイスも受け易く栄養補強食品・食物繊維が必要な方には提供している。食事の形態も利用者に合わせて調節し、治療食にも対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアが出来るように支援している。入れ歯の清潔が保てるように声掛けしたり、利用者のペースが守られるような口腔ケア方法を確認し支援している。訪問歯科診療も受けて貰い適切な口腔ケアが行なえているかアドバイスを受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレでの排泄を可能にする為、利用者の排泄パターン、身体的能力を加味しながら排泄介助を行っている。排泄チェックリストを作成し、時間を見計らいトイレ誘導を行ったり、どのようなオムツや尿パッドを利用するか時間帯や体調によって調節している。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄支援のマニュアルがあり、利用者が気持ちよく排泄できるよう支援されている。又、利用者の羞恥心に配慮して、トイレ内でご自分がパットの処理ができるようにされている。利用者によっては、排便があった時に状態をご自分の表現で職員に伝えて下さっている方がおられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然に排便が出る為に、食物繊維を利用したり、食事に繊維の多いものを使ったり、運動や歩行を取り入れたり温罨法や腹部マッサージを行なう等の工夫を行った上で、必要な方には、医師に相談し緩下剤の処方を受けているが、状態によって調整を行なうようにしている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者と相談し週間の入浴スケジュールを決めている。週3回から4回の入浴回数が多いが、余裕のある日は、お誘いして入浴して頂くようにしている。便失禁等で必要なときは随時入浴して頂ける様に工夫している。今の所、利用者からは満足の声が聞かれるが、必要時は、同性介助・夜間入浴等にも対応して行きたい。	
			(外部評価) 仲良しの方同士でお風呂に入られることもある。又、一人がいいと言われる方や入浴時、歌を歌いながら入る方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの睡眠パターンを把握し必要な方には午睡をとって頂いたりしているが、基本的には日中は集中出来る事や散歩や楽しみにしておられる事を演出し生活のリズムが整うように支援している。利用者の中では殆どの方は安定剤等の薬剤に頼らずに安眠できている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員が服薬内容が把握出来るように、薬効・内服量・副作用等を記載した薬剤ファイルを作成している。新しい薬が処方された場合は必ず申し送るようにしている。誤薬が無い様に薬ケースに整理して保管し、何回もチェックして投与するように心掛けている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 月に1階お花教室を開催し、生花を楽しんでおられる。ビーズ作品をたくさん作られ、展示し販売したり、園芸の好きな方に水遣りをして頂いたり、毎年、ミニトマトを植え収穫したり等の役割をして頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調の良い方は買い物や散歩にお誘いして外出支援を行っている。月に1回程度でほぼ全員の利用者と外出出来る様にしている。外出先は、利用者と話し合い決定したり、雑誌等で、職員が調べたりして楽しんで外出出来る様工夫している。 (外部評価) 毎月、外出の計画を立て楽しまれており、お花を見に出かけたり、つくし採りにも行かれ、今後、ご自分の故郷にあるそうめん流しに出かける予定もあった。又、職員が同行してご主人の葬儀に参列された方は、最期のお別れの言葉をかけられた。又、ご本人の希望にそって、ご家族と協同してご自宅で過ごす機会を作られた。普段は見られないような表情や発語があった等、取り組みの成果も感じておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の能力に合わせてご家族の同意を得て、自己管理をされている方や、日頃はグループホームで管理し、買い物の時に手渡し、自分で払って貰うようにしたり、個々にあわせての対応を行なっている。対応の仕方は、ミーティングの時に確認して支援の仕方が統一出来る様にしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は職員が宛名を記入し自由に記入して出していたりしている。年賀状が自分で書けない方は、職員が写真入りの年賀状を作成し差出人は利用者で出すようにしている。電話に関しては、希望時はダイヤルを回して差し上げたり、家族から掛かってきたらゆっくり話せるよう環境を整えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関を入るとすぐにトイレがあるので、こまめに利用者が使用した後は汚れていないかチェックして気持ちよく使用できる様に工夫している。玄関には利用者の最近の写真を張り、ご家族にも最近の様子が判り易い様に工夫している。	
			(外部評価) 事業所の入口には、利用者の最近の様子の写真や事業所便りが掲示されている。ベランダのプランターにお花が咲いていた。ご自分のお部屋を間違いやすい方には、目立つような目印がされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) グループホーム全体が狭いのでゆったりした空間が中々取れないので苦労している。リビングのソファが自分の指定席だと思っておられる方が多く職員が間に立ち対応している。最近、ベランダにたくさん花を植えたので、ゆったり出来るスペースを確保したいと思っている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時から利用者・本人と相談し、思い入れのある品は持って来て頂く様打ち合わせしている。利用者それぞれに、神棚・仏壇等を居室に置いて貰ったり、小物入れを職員と作り利用したりされている。家族の写真を引き伸ばして壁に飾る等の支援を行っている。	
			(外部評価) 居室には、外出時やお若い頃の写真を貼られたり、ご自宅で見ておられたケーブルテレビを引いておられる方もあった。利用者の好みで、ものを置きたくない方の希望にも応じておられる。買い物時に買ったお気に入りの小物や、ご自分が作ったビーズ作品を飾っておられる方もあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室のサインを利用者に分かり易いように工夫したり、身体レベルに合わせて居室の位置を変更し、残存機能の維持を心掛けている。ソファの座面を高くし立ち上がりし易くしたり工夫している。利用者の行動を観察し必要な場所に手すり等を設置したいが、構造上難しい事もあり今後も検討して行きたい。	
			(外部評価)	